

【他のグリースとの性能比較】

比較項目	耐熱性	機械的安定性	耐水性	防錆性	潤滑性
ニッペコDXL	◎	○	○	◎	◎
LiEPグリース	×	×	×	×	○
Liコンプレックスグリース	◎	△	△	△	○
ウレアグリース	◎	×	△	×	×

【組成並びに一般性状】

試験項目	試験条件	代表性状		
		No. 0	No. 1	No. 2
外観	-	淡褐色		
増ちょう剤	-	カルシウムスルフォネート複合石けん		
基油	-	精製鉱油		
混和ちょう度	25℃	374	324	283
滴点	℃	265	270 以上	270 以上
離油度	mass% 100℃, 24h	7.0	2.4	1.9
見掛け粘度	Pa·s 0℃・10s ⁻¹	47	107	-
	0℃・100s ⁻¹	16	22	-
塩水噴霧	35℃, 500h	A 級	A 級	A 級
高速四球試験WL	N 1770rpm, 10sec	3920	3920	3920
シェルロール	150℃, 165rpm, 24h	372 (-2)	341 (+17)	292 (+9)
含水シェルロール	30%含水, 80℃, 165rpm, 24h	371 (-3)	334 (+10)	312 (+29)

【荷姿】

- 420mlカートリッジ 20 本入りケース(No.0 は除く)
- 16kg 入りペール缶
- 180kgドラム缶

NIPPECO

NPC 株式会社 ニッペコ

<http://www.nippeco.co.jp>

営業本部 東京都中央区日本橋2-16-5高山ビル3F TEL 03-3273-2401
 大阪営業所 大阪府大阪市淀川区西中島3-12-15第5新大阪ビル7F TEL 06-6886-1261
 名古屋営業所 愛知県名古屋市中区錦1-18-24HF伏見ビル8F TEL 052-222-1311
 室蘭営業所 北海道登別市鷺別町6-23-8宮川ビル2F TEL 0143-87-1111

**NPC
GREASES**

高性能グリース

ニッペコDXL



株式会社 ニッペコ

(2012年4月1日に株式会社日本礦油より社名変更致しました。)

ニッペコDXL

ニッペコDXLは、耐熱性、耐水性、防錆性に極めて優れた新タイプの高性能グリースです。

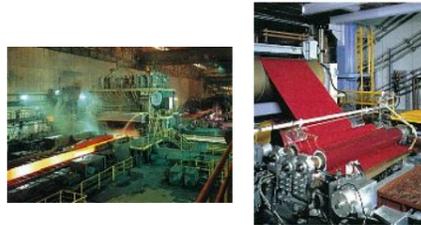
ニッペコDXLを使用することで、

- 1) 機械の故障率低減
- 2) グリース使用量の削減(給脂間隔の延長)
- 3) 廃棄物の減少

が可能となり、これらの相乗効果により、**大幅なコスト低減**が図れます。

【使用用途】

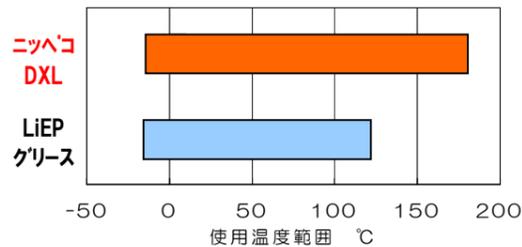
- ・ 製紙機械のワイヤーパート、プレスパート、ドライパート等の軸受
- ・ 鉄鋼設備の圧延機等の軸受、建設機械の旋回輪やピンなど



【特徴】

○耐熱性

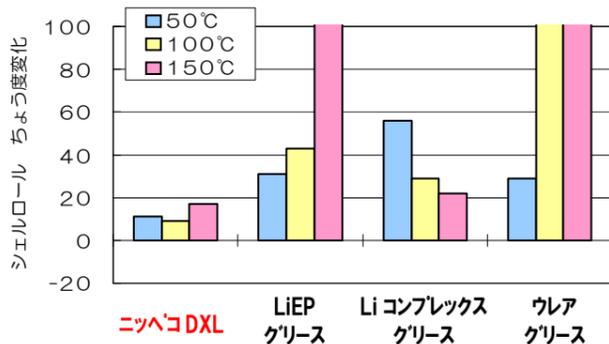
増ちょう剤にカルシウムスルフォネート複合石けんを使用しており、高温環境下(180℃まで)での使用が可能です。



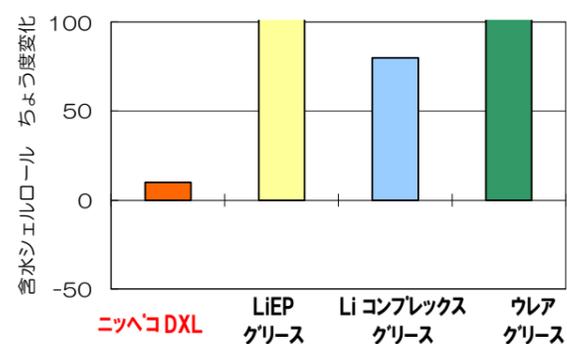
○機械的安定性・耐水性

高温高速の連続及び断続的な潤滑箇所での軟化流出しにくいグリースです。また、工業用水・白水等が混入しても軟化せず機械的安定性に優れます。

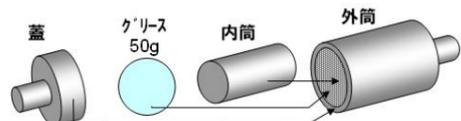
<シェルロール試験(165rpm×24h)>



<10%含水シェルロール試験(165rpm80℃×24h)>



悪
↓
機械的安定性
↓
良



<ASTM D1831>

回転するシリンダ-中でロールが自由にシリンダ-内面に沿って回転する機構を持ち、この中にグリースを入れて回転せん断作用を与え、規定回転後のちよう度変化を測定。

○防錆性

防錆性能にきわめて優れており、高温下及び水の存在下でも長期間防錆性能を維持します。

<塩水試験結果(35℃×500時間)>

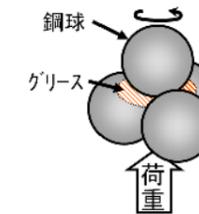
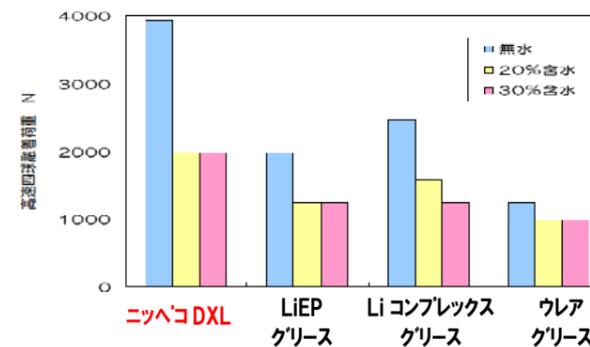
ニッペコDXL	LiEP グリース	Li コンプレックス グリース	ウレアグリース

<JIS Z2371>
35℃の槽内にグリース塗布した鋼板を設置し、5%塩化ナトリウム溶液を噴霧して防錆性を評価する方法。

○潤滑性

極圧性に優れ、高荷重・衝撃荷重条件並びに水を含んだ状態でも高い潤滑性能を示し、運転時の軸受の温度上昇を抑制します。

<高速四球試験 耐荷重能>



<ASTM D2596>
1/2inch径鋼球を用いた点接触での滑り条件下での評価。1770rpmで回転させ、10秒で融着する荷重を求める。

【実機での評価結果】



使用箇所：鉄鋼設備の軸受

比較結果：

現行グリース (LiEP グリース) は水が混入し、グリースの軟化・軸受の錆が発生、軸受けの耐久性を悪くしていました。ニッペコDXLへの切り替えを行ったところ、軟化・錆の発生もなく良好な潤滑状態を保っていたことから、給脂量の削減が行えました。